



お口のことので気になることはありませんか。歯科医師や歯科衛生士による相談を受けることができます。
【時】10月27日(火)午後1時30分～【所】市立保健センター【定】6人【申】問地域保健課

歯科健康相談



健康ガイド

船井皮膚科
院長 船井龍彦

夏の終わりから秋に多い帯状疱疹(ヘルペス)について

帯状疱疹は、比較的多くみられる皮膚疾患です。特に体調を崩しやすい夏から秋、概ね8月～9月に多くみられます。発症年齢は、50～70歳代に多いですが、小児も含め各年代層で見られます。

症状は、正中線より片側性の神経領域に神経痛様の痛みを伴う小水疱と潮紅で、全体として帯状に配列します。症状の程度は、軽症から重症までさまざまです。神経痛と皮膚症状が同時に出現すれば診断は容易ですが、神経痛のみが先行する場合、診断が遅れることがあります。顔面に生じた場合は、顔面麻痺、眼障害、内耳障害(めまい、耳鳴り、難聴)などを併発することもあり注意しなければなりません。

原因は水痘(みずぼうそう)と同じウイルスによるウイルス感染症です。多くの人は主に幼児期にこのウイルスに感染し水痘になります(初感染)。しかし、水痘が治ったあともこのウイルスは体内の神経節に潜伏しています(潜伏感染)。ストレス、過労、病気などで免疫力が低下した際に、潜伏し

ていたウイルスが再び活性化して帯状疱疹を起こします(再帰感染)。

治療はまず十分な栄養と休養をとってください。さらに、抗ウイルス剤の内服あるいは点滴、外用剤による皮膚科処置が必要です。病気の経過は、皮膚症状は2週間程度で治りますが、痛み・違和感が長期間残ることがあります(疱疹後神経痛)。抗ウイルス剤は有効ですが、腎臓障害者には慎重に投与しなければなりません。痛みを残さないためにも、早期の診断と治療が重要です。

伝染性については、他人にうつす可能性があります。この場合、帯状疱疹から帯状疱疹にうつしません。水痘にかかっていない人に帯状疱疹ではなく水痘としてうつしますが、既に水痘にかかった人にはうつりません。できるだけ小さな子どもや妊婦さんには接触しないでください。

なお帯状疱疹は一度罹患しても、免疫力が低下したときは再発することがありますから、治った後も油断せず健康管理に気をつけてください。

広告募集中

広報まつばらには、広告を掲載しています。掲載のお問い合わせは、

広告代理店 合同会社IM 総合企画 (☎072-275-5449)

広告代理店 株式会社ホープ (☎092-716-1404)

広告代理店 株式会社宣成社 (☎06-6222-6888)

広告代理店 株式会社ブリーズ (☎06-6262-1101) まで。